

ヘブル語の時制転換について

— 継続のヴァヴについて —

●「継続のヴァヴ」(「継続のワウ」という言い方もされます)。「ヴァヴ」、「ワウ」は、ヘブル文字の「ו」です。この文字から始まる語彙はないため、この文字が頭に来れば接続詞だと考えるべきです。この接続詞が動詞についた用法が、ヘブル語特有の文法なのです。例えば、以下の二つの文章を例にとって説明すると、

(1) 「王は主のみことばを守った」は、以下のようになります。

デヴァル・アドナイ エット ハンメルフ シャーマル
שָׁמַר הַמֶּלֶךְ אֶת דְּבַר יְהוָה
主のことば を その王は 守った

(2) 「彼は正義をもってその民を裁いた」は、以下のようになります。

ベツェデク ハーアーム エット シャーフアト
שָׁפַט אֶת הָעָם בְּצֶדֶק
正義をもって その民 を 彼は裁いた

(1)(2)の文章の動詞はいずれも完了形です。しかしこの二つの文章を一つの継続した文章とするためには、最初の動詞のみが完了形とされ、それに続く動詞は「ヴァヴ」のついた未完形となり、「その王は主のみことばを守り、義をもって民をさばいた」となります。以下がその表記になります。

שָׁמַר הַמֶּלֶךְ אֶת דְּבַר יְהוָה וְשָׁפַט אֶת הָעָם בְּצֶדֶק

●これが逆に、未来に言及する継続した文章にするとすれば、最初の動詞が「守るであろう」という未完形になり、後続の動詞はヴァヴのつけられた完了形となって「その王は主のみことばを守り、正義をもってその民を裁くであろう」となります。以下がその表記です。

שָׁמַר הַמֶּלֶךְ אֶת דְּבַר יְהוָה וְשָׁפַט אֶת הָעָם בְּצֶדֶק

●**ところで**、ヨシュア記、士師記、ルツ記、Iサムエル記、IIサムエル記、ネヘミヤ記、エステル記、エゼキエル書、そしてヨナ書の冒頭は、「ヴァツィエヒー」(וַיְהִי)という言葉で始まっています。これは「ハーヤー」(הָיָה)の未完形「イフイエ」(יִהְיֶה)の前に「ヴァヴ」(ו)がついた形ですが、その場合、וַיְהִיという形にならずに、短縮形のוַיְהִי となります。この場合は、すでに先行する事柄の連続を意味する「そして…」という直訳よりも、むしろ、「さて・・・があった(起った)」という過去の意味で用いられます。決して、おとぎ話のような「昔々」というような意味ではなく、「**歴史性を主張するための語法**」(樋口氏)なのです。